

中学2年生のための英語の学習の指導のための参考資料

※中学と高校の英語指導方法(中学2年生用ですが3年生にも高校生にも有用です)

【中学生の置かれた立場】

1) 中学の英語指導には①中学は中学、高校は高校と分けて指導する立場があり、普通の公立の中学や高校ではこの立場を守っています②これに対して中学から高校までの一貫した英語学習の指導の方法があります。中高一貫学校や比較的難易度の高い学習塾はこの方法をとっているものと考えられます。

2) 志成館でもレベルが高い授業についていけるクラスの生徒には中高一貫の英語の指導をしています。そして「塾のこのような英語指導についていけるなら中高一貫高校に行く必要はない」と館長は偉そうに生徒に言い聞かせています。(もちろんこれ以外に、志成館で提供する国語や社会や理科の各種の補助教材そして英単語の教材も加えての事です)

3) 他方で公立の学校では中学の先生と高校の先生とがお互いの指導上の配分を守って、普通の中学校では高校の先生が教えることを教えないようにしています。

4) その結果として困ることが起きるのです。それは中学の授業で習う英語がわかって良い点を取っていても、高校に入った間もなくのころは、中学と高校の英語の勉強は教え方が異なるので勉強についていけず、結局は英語が苦手な生徒になっていくということです。

5) だから学習塾によっては、中学の時から「高校以降でも通用する英語指導」がなされ、結果として逆に中学校の授業にはついていけても塾の授業にはついていけなくて、「さっぱりわからない」さっぱりわからないことになるのです。

【今の時点でのとらえ方】

1) 基本的には、中学2年の時点で学校の授業についていけておれば、単語もそれなりに覚え、日本語訳もできるわけですから全く心配はありません。むしろ塾にはついていけなくても、学校の授業についていった方が高校入試の結果はかえってよくなるとも考えられます。

2) 従ってレベルの高い塾の授業についてなくても心配がない、単なる取り越し苦労だという判断をしてもかまわないということです。ただ「これからの中学2年生の1年間が決定的な期間になる」ことは覚悟して、できることなら高校の英語の文法の体系が理解できるように頑張っていこうという姿勢は必要となります。加えて「強い体力の形成・思いやり溢れる人間性の育成・そして厳しい社会を生き抜く学力の維持」に努めてください。ちなみにこれは志成館の指導方針です(笑)。

【英語の学習の問題点について】

英語学習の現在と今後についての説明をします。

1) まず英語は「文法」がしっかりと理解できない限り、難易度の高い大学に合格して将来英文で契約書を作成したり学術論文などを発表することはできません。

2) 文法がわからなくても映画を見たり、歌を歌ったり、旅行やショッピングをして、好きな人を口説くことはできます。つまり「普通に英語がわかる」程度までは、中学で習う英語でそれなりの力をつきます。

3) しかしレベルの高い英語を身につけようとするなら、ここ10年以上前からの中学の教科書には致命的な欠陥があるというべきでしょう。それは英語指導が上掲2)の程度の英語が身に付けば十分であるという教科書編成になっており、結果として比較的レベルの低い「英会話中心の教科書」になっているということです。

4) ご存知かもしれませんが、実は英語の会話文はあれこれの語や句が省略された短い文で、各種の語や句を補填しないとわかりにくい難しい文なのです。その上に「高校レベルの英文法」が(例えば Let's go. などは原型

不定詞が入った難解な文なのですが) 入っているために、生徒たちはただ単にわけも分からず英語の会話文とその日本語訳の丸暗記をさせられている状態になっているのです。文部科学省が英語学習の成果を上げたいと焦るがゆえに、10年以上前から多くの中学生はますます英語がわからなくなっているのです。

5) 本当は「英文法」が出来上がってから「会話文」を学ぶべきなのです。文法的な英文の構造がわからないのに、丸暗記させられている子供たちは哀れなものです。これから導入される小学校の英語についても同じです。英語がわからない生徒がますます増えていくでしょう。

6) 以下は実際に私の親しい友達に起こった実際の話ですので参考にしてください。この家庭では親が「英語を早く理解するように」と小学生の時から外国人の英語教師を家庭教師として雇い入れて教育をしていました。小学生の時はそれなりに話せることはできていました。そして賢い子供のように見えました。しかしその後どうなったと思います? 「中学に入って以降の英語はガタガタ」になったのです。英語が苦手科目になったのです。

7) 将来一流大学に合格するには英語会話ができるよりも「英文法」がしっかりしていないと合格は無理なのです。つまり中学時代から高校の「文法」中心の学習をしておかない限り間に難易度の高い大学への合格は間に合わないのです。正確に言うと「中学の先生の授業方法だけを理解していると、高校に入学した後また新しく英語の学習を組み立てなおさなければならない」から時間が足りなくなるのです。

8) 怖がらせましたが(笑)心配はいりません。実は英語の文法はとても分かりやすく、体系がきれいで、コツがわかっていたらこれほど簡単な言葉はないのです。

9) いつもの館長の自慢話(笑)をします。イギリスが世界の歴史の舞台に登場するのは比較的新しいですよ。ましていわんやアメリカはなのですが。実は英単語の30%はドイツ語からできており、50%はフランス語からできています。800年くらい前にフランスのノルマンジー公がイギリスを支配していた時にフランス語の多くの単語が英語に入りました。しかし文法構造は庶民階級の言葉であったドイツ語(正確には低地ドイツ語で、高地ドイツ語がルター宗教改革以降、今のドイツ語となって定着しています)がそのまま使われていました。ドイツ人が使う言葉だから名詞の格変化など厳密で、ドイツ語を覚えるのにはひと苦労します。しかしドイツ語がもとになって出来た英語は、その後文法がとても簡略になり続けて今日に至っています。伝えたいのは「英語は産業革命以降のイギリス帝国による世界支配で多くの国で使われるようになった」だけではなく、実は「文法的にもとても簡単な言語」だから広く世界中で使われることにもなっているということです。「英語の文法ほど簡単な言葉は世界にない」ということです。

【ここから「本当に伝えたい英語の文法論です」しっかり読んでください】

1) 日本の(高校の)英語指導は、昔からある「総解英文法」か「ロイヤル英文法」の大系に従ってなされています。電子辞書に700ページ以上ある「ロイヤル英文法」が入っていることが多いことから、「ロイヤル英文法」の「権威」が理解できると思います。

2) この本そしてこれに準じるほかの多くの高校の文法の参考書が、この本と同じように「英語は基本5文型がすべてである」という発想に立って作成されています。難しいように聞こえますが、考えても見てください、世界中のそして歴史上のすべての英文には「わずか5つの文章構造」しかないということなのです。このことだけで、英語がいかに簡単な言葉であるかはわかってくれると思いますがどうでしょうか。

3) 英語などには日本語で言うところの格助詞がない。だから言葉の並べ方にはルールがあり、そのルールに従わないと意味が理解できません。英語ではI love you.しかないのです。他方日本語は「私はあなたが好きだ」でも「あなたを好きなのですよ私は」でも「好きなのですあなたのことを私は」などのどれでも意味は通じます。しかし英語の語順は決まっているのです。だから「英語」では言葉の並べ方のルールを覚えることが最優先します。それが基本5文型なのです。

4) 高校に入るとよくわかるのですが、英文解釈の時に「自分の知っている単語を自分の思うように並べて訳して」意味が通じていても良い点はもらえません。基本5文型のうちのどれであるかを理解して「私は文型の把握がで

きていますよ」ということを示した日本語訳でない点もよい点はもらえません。同じように日本語の文を英文にする英作文のときにも「当該の日本語は英文の基本5文型のどの形を使えばよいかを把握して英作文をし」ない限り良い点はもらえないのです。文法問題だけではなく、このような解釈や作文部分でも英語では基本5文型が優先されるのです。

5) そしてここが重要なのですが、日本語の国語で習う品詞優先の学習と異なり、英語は文型が優先するので、品詞よりも「文の要素」つまり、S=主語、V=述語、C=補語、O=目的語、(M=修飾語)の把握が優先するのです。そして基本5文型の並べ方を暗記したうえで、Sには名詞関係語句、Vには動詞関係語句、Oには名詞関係語句、Cには名詞関係語句及び叙述用法の形容詞関係語句(限定用法もあるので形容詞には使い方が異なる2つの用法があることを早く理解しましょう)が入り、(M)には限定用法の形容詞関係語句や副詞関係語句が入ると考えましょう。そして(M)は文の要素ではないために5文型には関係がない、文のおまけみたいなものであることも理解してください。つまり文型把握の過程で、修飾語は除外する必要があるのです。

6) 上に書いた「何とか関係語句」という言葉の意味はとても重大で、英語がよくわかる人はここをとてもしっかりと理解しています。つまり日本語と異なり英語では品詞を重複的にとらえるので、語である名詞と句である名詞と節である名詞をひっくるめて同じように使うのです。副詞・副詞句・副詞節は同じように、形容詞・形容詞句・形容詞節(関係節)は同じように使うのです。この意味が分かれば英語はとても簡単になります。

7) ここを説明しますと A tall girl with red hair のうちの with は前置詞で、red は形容詞で、hair は名詞という品詞なのですが with red hair が一つの単語として(=形容詞句)として把握されるので、もはや3つの単語の品詞は意味をなさないのです。つまり3つの単語を新たな1つの単語ととらえなおす必要があるのです。tall は「語としての形容詞」で with red hair は「句としての形容詞」になるのです。日本語訳は「赤い髪をした背が高い女の子」になります。

8) 今からこの把握ができるようになり、句や節が一つの単語と把握できるようになれば、長い文も短くなって理解がとても簡単になるのです。I went to Kyoto with my mother in 2016. の文は5つの単語(群)から、正確には5つの品詞からできていることがわかりますか。ちなみに文型は第1文型です。To Kyoto と with my mother と in 2016 は三つとも副詞句になります。これら三つはM(=修飾語句)なので文型には関係がありません。

9) 英語では一つの述語動詞があるごとに一つの文(または文中文=節)ができます。それぞれを「常に文型を意識して」把握するのです。そしてピリオドまでで終わる一つの文には、この一文の時(単文)だけでなく、一つの文が二種類ある接続詞(等位接続詞と従位接続詞の二種類がある)のどちらかで二つ以上つながれた(重文)または(複文)になることが普通にあるのです。さらにはこれが複雑につながった長い文(混文)になることが多く、入試で出る英文の日本語訳はほとんど混文の形で出題されているのです。

10) これまで中学1年で習ったことは、①英文には Be 動詞型と一般動詞型と助動詞プラス動詞の原形型の三つがあることと、②この三つの述語の形の文のそれぞれの否定文や一般疑問文や特別疑問文(疑問詞で始まる疑問文)の作成ができておれば心配はありません。英語の文では疑問文や否定文の作り方のルールは全ての英文で3通りしかないのです。それを1年かけて習ったのです。そして今中2で習っている過去や未来の文=「時制の学習」は文中のV=述語動詞の部分を変えればよいだけのことだと考えてください。また上に述べた「句」や「節」はこれから1年間かけて習うことであり、「品詞」もこれから1年かけてしっかりと学校で習いますので、慌てたり心配する必要は全くありません。ただし秋以降で習う「不定詞」は将来の英語がわかるかどうかの分かれ目になるから注意しておいてください。文法的な説明の仕方では、「不定詞は品詞の変換」の学習になります。

11) この10)部分の説明はわかりにくいと思いますが、「学校の先生の説明がどのようなものであれ、すべての英文を文法的に理解して把握しないと英語の力は伸びていかない」ということを伝えたかったのです。

12) 早めに付け加えて説明しておきますが、もう一つ大切で難しいのは、英語の文法上の語句の説明の言葉が、「形の上での名前」と、「文中の作用上での名前」の二つを持っている場合があるということです。上掲の文では、たとえば with my mother は形式上の名前は「前置詞句」であり作用上の名前は went にかかる「副詞句」

ということです。不定詞の学習の時にはもともと動詞として述語になっていた単語が、to と一緒になることで「不定詞句」という形式上の名前が付き、それが別の品詞である名詞と形容詞と副詞に変わり「名詞句」「形容詞句」「副詞句」という作用上の名前に代わるのです。

※ 福岡市の比較的難易度の高い公立や私立高校でも使用されている「Vision Quest」という「現在日本にある最もわかりやすい最高の文法書」を志成館では中学生の時にも一部使っています。この本は高校生用とはいえ、上と下が緑のページの部分は中学生に最適な文法書で、説明がとても分かりやすくなっていますので、塾の先生の説明がわからないときにはこれでチェックするとよくわかるかも知れません。先生の志成館でもレベルが高い子にはこれを中学生用に使っていますが、英語がわからない高校生にも同じ本を使っています。ちなみに上と下が青いページは主に大学入試に出題される部分となっています。

新宮町三代735-1

学習塾志成館館長 森 英行